

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 張 婧璋 (チョウ セイイ; ZHANG, Jingyi)

論文題目 中国人日本語学習者による周辺語彙の理解

### 論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 玉岡 賀津雄

委 員 名古屋大学教授 杉村 泰

委 員 名古屋大学准教授 鷺見 幸美

委 員 明治大学准教授 小森 和子

委 員 関西学院大学講師 早川 杏子

## 博士論文の意義

本論文「中国人日本語学習者による周辺語彙の理解」は、中国語を母語とする日本語学習者による日本語の周辺語彙の理解における諸要因を検討したものである。「名詞+動詞」型(以下、NV型)複合名詞、複合語型の和製英語および流行語の3つの領域の周辺語彙を研究の対象とし、これらの周辺語彙の理解の状況を分析した。そして、日本語学習者が、基本となる語彙から周辺語彙へと拡張して理解が広がっていくプロセスを解明した。本研究の意義は、以下の3点にまとめられる。

第1に、中心語彙と周辺語彙の理解の因果関係が実証できた。とくに中心語彙の知識が豊富なほど、周辺語彙としてのNV型複合名詞、複合語型の和製英語と流行語の意味理解も高くなることが確かめられた。

第2に、中国人日本語学習者によるNV型複合名詞、複合語型の和製英語と流行語の理解プロセスを提示したことを通して、今後、どのように中心語彙から周辺語彙へと中国人日本語学習者に効率に教えるのかについて、語彙指導には新たな知見を与えられる。

第3に、教育現場で軽視されやすい周辺語彙に注目し、中国人日本語学習者の理解を検討し、中心語彙から周辺語彙へと拡張していく語彙習得の流れを記述した。このことは、今後の日本語学習者に対して、より体系的かつ効率的な教授方法や教材開発の基礎資料となり、日本語教育の現場に貢献することが期待される。

## 博士論文の概要

語彙は、中心語彙と周辺語彙に分けられる。中心語彙(基本語彙または基礎語彙)は、日常生活で多様な表現で使用され、使用頻度が高く、知識の専門性に関係なく文を構成する中核的な要素となる語の集合である。それに対し、周辺語彙は、方言、隠語、流行語などのように使用頻度が低く、使用範囲の狭い語の集合である。周辺語彙は、中心語彙を基盤として理解が広がっていく傾向がある。そこで、本研究では、NV型複合名詞、複合語型の和製英語および流行語の3つの周辺語彙を対象として、中心語彙に基づく周辺語彙の理解のプロセスを検討した。

第1に扱った周辺語彙は、NV型複合名詞である。複合名詞には、「名詞+名詞」、「動詞+動詞」、「名詞+動詞」など多様な構造を持つものがある。本論文では、特に、「名詞+動詞」の構造をもつ複合名詞を対象として、日本語学習者によるこれらの周辺語彙の理解を調査した。中国語を母語とする日本語学習者に対して、NV型複合名詞の理解と同時に、中心語彙の知識と基本的な文法の知識を問うテストを同時に実施して、これらの周辺語彙の理解を促進する背景要因を検証した。

まず、日本語の中心語彙の知識に基づいて上位・中位・下位の3群に分け、一元配置の分散分析で検討した。その結果、まず中心語彙の理解がこれらの複合動詞の理解に影響することが分かった。さらに、3群の理解得点を基にして、NV型複合名詞の、理解パターンを分類すると、2つに分けられた。一つは、「主語+動詞」(「夜明け」など)と「意味・統語的無関係」(「左

利き」など)の複合名詞で、3群間の理解得点は「下<中<上」となり、下位群から上位群に向かって段階的に得点が上がっていた。この理解パターンは、中心語彙の知識が向上するにつれ、NV型複合名詞に対する理解が伸びてくことを示した。もう一つの理解パターンは、「目的語+動詞」(「湯飲み」など)と「補語+動詞」(「後回し」など)の複合名詞の理解である。3群間による理解得点は「下=中<上」となった。つまり、中心語彙の理解がある程度高くなると、理解が進まないという理解パターンである。複合語彙にも、中心語彙の理解と共に伸びていくものと、ある程度の中心語彙の蓄積が必要なものとの2種類があることが分かった。

さらに、3群の理解度を基にして、40語を対象にクラスタ分析を用いて、さらに詳細に4つに分類して検討した。(1)「首飾り」「歯磨き」などのように、漢字を表記手法とする中国人日本語学習者にとって、漢字知識を手掛かりにして理解が容易になる「母語の語彙知識を有効に利用できる複合名詞」であり、理解度が高かった。(2)「手掛かり」「腰掛け」「湯飲み」などのように、「掛かる」「掛ける」という有対自他動詞を含み、また、動詞句に還元できるものの、指示物のカテゴリが不特定であるため、意味が理解し難くなる「指し示すものが特定しにくく、自他対応の動詞を含む複合名詞」であり、最も理解度が低かった。(3)「人込み」「心当たり」などのような語彙量に関わる「語彙知識の広さが関与する複合名詞」であり、理解度はやや高かった。(4)「日差し」「仲直り」などのような各構成する語に対して、意味知識に関わる「語彙知識の深さが関与する複合名詞」で、理解度はやや低かった。

第2に扱った周辺語彙は、複合語型の和製英語である。複合語型の和製英語を研究対象として、日本語を専攻とする英語・日本語の両言語に堪能な中国人日本語学習者に対し、日本語の中心語彙テスト、英語の語彙テスト、和製英語理解テストの3種類の語彙テストを実施した。重回帰分析の結果、和製英語の既知度と理解度には、日本語の語彙知識は影響していなかったが、英語の語彙知識からの影響が見られた。英語の動詞の知識は和製英語の理解を促し、形容詞の知識は阻害していた。たとえば、「オープン」という英語の動詞が、和製英語の「オープナー」に使われても意味は大きく変わらない。しかし、和製英語の「シルバーシート」の「シルバー」は、JR(当時は国鉄)が高齢者用にシートを灰色っぽい銀色(シルバークレイ)にしたことが語源であり、英語から類推することはできない。英語の形容詞は日本語の中で意味的に拡張し易い語彙範疇であるといえよう。

さらに、和製英語の理解度と既知度から28語をクラスタ分析で3つに分類した。それらは、(1)「ハイウェイ」「ゲームソフト」などの「理解容易な和製英語」で、対応する英語の単語や表現形式が類似しており、英語の語彙知識から容易に推測できる語である。(2)「ベッドタウン」「スキンシップ」などの「理解困難な和製英語」で、多義的または意味拡張があり、構成する2つの英単語の意味が和製英語の意味とかけ離れており、英語の文法規則に従わない語である。(3)「タイムサービス」「ミスコンテスト」などで、「推測可能な和製英語」で、修飾部と意味的主要部が構造的に明瞭であり、英語に堪能な日本語学習者にとって、意味的に推測し易い語である。

第3に扱った周辺語彙は、流行語である。流行語は、日本語教育における語彙教育の対象とされることはほとんどない。しかし、中国人日本語学習者は、ドラマ、アニメ、漫画などにより流行語に接する機会が多く、日本語学習の動機付けにもなっている。そこで、日本語を専攻する中国人日本語学習者を対象に、中国人日本語学習者による流行語の理解について検討した。近年の流行語に対する理解を測定するために、流行語の理解テストを実施した。また、同時に日本語の中心語彙テストを実施して、影響関係を考察した。

まず、語彙能力に基づき上位・中位・下位の3群分けて、流行語の理解得点についての分散分析を行った。その結果、中心語彙の理解がこれらの流行語の理解に影響し、中心語彙の能力が向上するほど、流行語の意味の理解も伸びることを確認した。さらに、中心語彙の語種と品詞別の得点から流行語の理解を予測する重回帰分析の結果、語種別で、外来語と漢語の知識が流行語の理解を強く促進する傾向を示した。流行語のうちの多くは「干物女」「アラカン」「ネットカフェ難民」などのような、外来語、漢語、または混種語であるため、外来語と漢語の語彙知識が流行語の理解に大きく貢献していると予想される。

さらに、30語の流行語の理解を基にクラスタ分析を行った結果、4つに分類された。それらは、(1)「干物女」「萌え」などの「ACGに深く関わる理解容易」な流行語である。ACGとは英語はアニメ、コミックとゲームの英語の頭文字をとり、作られた略語である。それらの語彙はACGを媒介にし、流布したため、若い学習者に馴染みがあるものでもあり、中国語に定着したものも含んでいる。この分類の理解度は4つの中で最も理解度が高かった。(2)「クールビズ」「ネットカフェ難民」などの「日本社会と関わる推測可能」な流行語である。日本に関わる背景知識が求められるが、構成する語の意味により、正しく推測できる範囲の語であり、理解度は比較的高かった。(3)「がばい」「ワーキングプア」「赤ちゃんポスト」などの「日本社会と関わる推測困難」な流行語である。それらの語彙は、社会や時代の変化に応じて新しい物事が現れるので、構成する語における意味拡張が起こる可能性があると考えられ、理解度は比較的低かった。(4)「ハニカミ王子」「事業仕分け」などの「日本社会と関わる理解困難」な流行語である。これらの語彙は、新奇な用法を用いている場合もあり、恣意的なものであるため、背景にある社会文化的な意味内容の理解がなくては、語の理解が難しく、理解度が4つの分類のうち、最も低かった。

以上のように、本博士論文では、中心語彙の理解と関係させながら、NV型複合名詞、複合語型の和製英語、流行語の3種類の周辺語彙の理解を検討した。

## 論文の評価

口頭試問では、以下の点についてのコメントおよび論者との質疑応答があった。

1. 周辺語彙というテーマは新奇性があり、これまで焦点が当てられることがほとんど無く、その点で面白い。和製英語、流行語、ということを対象としたのは面白い。また、これだけの

テスト問題を作成したことは高く評価できる。

2. NV型複合語について、「爪切り」についてであれば、「爪を切るもの」「爪を切る人」「爪を切ること」なのかが日本語学習者には分かり難い。つまり、複合語の統語構造が分かったとして、NV型複合語に埋め込まれたXという意味がどう解釈されるかを問う問題とすべきではなかったのか。しかし、選択肢として使われている誤りの項目は、こうした選択肢になっていない。テスト形式が研究課題と一致していないのではないか。本研究で使用した四者択一の問題形式は、確かに具体的な誤り易さそのものを選択肢に含んでいないが、この形式は日本語能力試験にも使われており、能力の弁別力が強いことが証明されている。本研究でも、この形式を踏襲している。NV複合語が具体的に何を指すかを問う問題は、今後の課題としたい。

3. NV型複合名詞のテスト問題について、実在する語と実在しない語が選択肢に混在している。近年の日本語能力試験の問題では実在しない語は含まないことになっている。その点でテスト作成において妥当性に欠くのではないか。これについては、本研究では中国語を母語とする日本語学習者に対象を絞っており、中国語でありそうで誤りを引き起こしそうな表現を含んだので、日本語に無い複合語も選択肢に含んだ。

4. 「タコ焼き」を知っていれば「イカ焼き」も想像できるであろう。しかし、「湯飲み」を知っていたとしても、「酒飲み」とは違うので誤りを引き起こすであろう。また、「酒飲み」を知っている学習者が、「湯飲み」を同様に解釈しようとするれば、語の意味とは異なった解釈になるであろう。その意味、やはり解釈を聞く問題であるほうが良いのではないか。この観点からの調査については、1と同様に、今後の研究課題としたい。ただ、本研究において、NV型複合語に文法知識の影響が無かったのに、語彙知識からの影響が観察されたことから、やはり統語構造上の解釈のみでは、NV型複合動詞が理解できないことを裏付けていると言えるのではなかろうか。

5. 和製英語について「理解」という表現が使われている。調査では、既知度と理解度の2つの尺度を設けている。既知度とは「すでに知っているかどうか」ではなく、調査用紙では「聞いたことがあるかどうか」ということになっている。人によって、既知度にチェックする基準が曖昧ではないかと思われる。これについては、既知度と理解度の両方が高い場合は、調査対象の和製英語がよく習得できていると考えられる。一方、既知度が低いのに理解度が高い場合には、2つの外来語の組み合わせから意味解釈が容易で、意味が推測し易い和製英語だと考えられる。既知度と理解度の両方が低い場合には、聞いたこともなく意味も推測し難い外来語であると考えられる。この場合、「推測」と説明したが、問題を解く際のプロセスは推測であり、結果として正答であれば「理解」であると考えられる。本研究では、階層的クラスタ分析に

よって、3つのクラスタが得られ、以上の結果を反映していた。

6. 中心語彙と周辺語彙とは何か。和製英語は外来語の一つであるが、これは周辺語彙と言えるのか。周辺語彙の定義としては、「使用頻度が低い」、「使用範囲が狭い」を定義としている。その結果として、「生産性が低い語彙」になる。たとえば、「宙返り」は特定の意味を持っており、生産性が低いので、周辺語彙となる。複合的な和製英語は、使用頻度および範囲が限られているので、周辺語彙であると考えられる。ただし、「手続き」は、8,554回の使用頻度となっており、周辺語彙としては使用頻度が高く、今回の調査対象では例外的な語であった。

7. 教材についての提案をしたいということであるが、論文の最後に具体的な提案が書かれていない。また、語彙を教える順序についても検討することが書かれているが、特に今回扱ったものについて、順序をつけるのは難しいであろうと予想する。そのため、日本語教育への具体的な提案については、この研究の対象外と考えて、削除してはどうか。この提案を受けて、具体的な日本語教育への提言については、含まないことにした。

8. 東華大学で調査したことを、承諾があるのであれば、明記したほうがよいのではないかと。調査許可を取っているため、具体的な大学名を入れることにした。

9. 男女別の人数については触れていないのはどうしてか。日本語学習者の多くが女性であるため、記述しなかった。被験者の記述をちゃんとすることにした。

10. 四者択一の問題形式は、何を意味するのか。クイズに答える能力を測定しているのではないか。日本語能力試験でも四者択一の形式を取っており、問題の選択肢として、能力の弁別力の高い測定方法であると考えている。

11. 日本語母語話者でも正答率の低い流行語もあるが、これはどう解釈するのか。日本語母語話者は、基準であり、日本語母語話者ができていない場合には、中国人日本語学習者も正答率が低い。

12. 語について解説があるが、それよりもむしろなぜ間違えるかを書いて欲しい。これについては、語の解説は削除して、正誤に焦点を当てて書くように訂正する。

13. クラスタ分析を使うことの意味がどのくらいの意義があったのか。クラスタの名前がついている理由がもう一つ分からない。本研究で使った階層的クラスタ分析は、中国人日本語学習者の正解に基づいた分類であり、客観的な判断として使用した。都合の良い例を持ってきた、

全体がそうであるような解釈にはしたくなかったので，このような数学的な客観的な手法を使った。

### **審査委員会による合否判定**

以上のようにさまざまな指摘，改善点，今後の検討についての助言があり，それぞれの点について適切な回答が得られた。また，コメントに従って訂正を確認した。全体として本論文は質量ともに博士課程後期の学位論文としての基準を十分に満たしていると審査委員会の全員一致で判断した。したがって，本論文を合格と判断した。